

活動成果報告書

令和5年度（第27回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ お子さん連れOK！子宮頸がん検診	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 北上市 健康こども部 健康づくり課 成人保健係 代表者：齊藤 美鈴	
勤務先：北上市役所 所 属：健康こども部 健康づくり課 所在地：〒024-0092 岩手県北上市新穀町1-4-1 TEL：0197-72-8296 FAX：0197-65-3834	

◇活動方針

保健師は、地域で生活するあらゆる人々と地域全体の健康のため、対象や地域に応じた方法で疾病予防や健康増進など公衆衛生活動を行う地域の看護職です。北上市では、保健師、管理栄養士、栄養士、歯科衛生士、看護師等の専門職が健康づくりに関する仕事をしています。

がん検診は、“がん”の早期発見・早期治療のために必要な検診ですが、北上市の令和4年度の各がん検診受診率は、23.0%～45.3%を推移しており国の目標値に至っていない状況です。

北上市ではこれまで、がん検診の受診率向上を目標に、年代を問わず市民全体に対して一律に勧奨通知等を行ってきましたが、大きな成果は得られませんでした。そこで、今年度は市が採用したDX推進リーダーを交えて新たな視点から検討を行った結果、ターゲットを絞り、「受診したくても受診できない未受診者」への対策を最優先に検討するよう、年度途中で方針変更しました。

この新たな方針では、「乳幼児がいて、受診をあきらめているお母さんの子宮頸がん検診」に対象者を絞り込み検討しました。また、対象者への周知手段には、デジタル親和性の高い世代向けのSNSが有効と考え、既に市で導入済のデジタル基盤を利用しました。

活動成果報告書

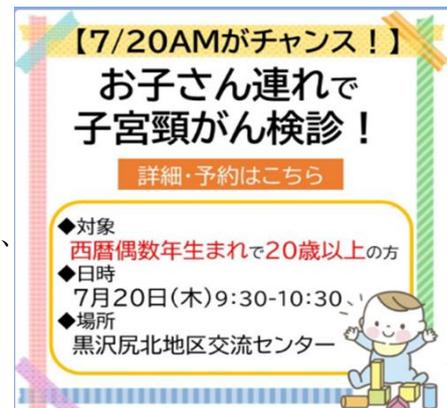
◇活動内容とその成果

<活動内容>

先の方針に基づき、「乳幼児がいて、がん検診を受診できないお母さん」をターゲットに「お子さん連れOK！子宮頸がん検診」という宣伝フレーズを掲げ、イベントを企画しました。また、この企画を今後も持続可能な取組にする為、検討内容を企画書例として再利用できるように、企画内容として次の4点を考慮しました。

1. 短期間で効果的な告知と募集

- ・既に市公式 SNS での告知を行っている産前教室等の実績から、20 人の予約枠は開催日の 2 週間前に SNS 告知が適切と判断し、直ちにオンライン予約可能な記事を職員で作成しました。
- ・対象のお母さんが自分事として気づけるタイトルを設定し、子宮頸がん検診の対象年齢、日時、場所のみを記載した記事としました。



2. 完全オンライン予約制での実施

乳幼児がいるお母さんが、気軽に検診予約ができるよう予約手段は SNS での告知画面から直接オンライン予約できるように設計しました。予約は 20 枠とし、オンラインのみで受け付けるため、既存のデジタルツールを使って職員が自前で予約画面を開発しました。特に配慮した点は、以下の 2 点です。

①予約時にお子さんの情報を追加入力

お子さんの発達段階に合わせてスタッフ人数や玩具、会場のレイアウト等の事前準備のため予約画面に来場予定のお子さんの年齢（月齢）、お子さんの見守りサポートで心配な点が入力できる項目を追加しました。

②当日キャンセルOK

心理的な負担を除く目的で、「こどもの発熱等での当日キャンセルOK」を最初から明記しました。

3. 乳幼児連れでゆったり順番待ち可能なスペースの確保

今回は一般の受診者もいる会場だったことから、その待合室とは別に、周囲に気兼ねなく順番待ちできる座敷にキッズスペースを設置しました。検診の間はスタッフがお子さんの子守をする対応としました。また、来場するお子さんの月齢情報から生後 2 か月の乳児が 3 人来場することが事前に分かっていたので、キッズスペースの中で乳児と幼児で区域を分ける事前準備ができました。

4. 事後アンケートによる満足度調査

今後の継続や持続可能な取組にするために、参加者へ検診終了後にアンケートを実施し「受診した理由」、「企画の満足度」などを調査することにしました。アンケートはオンライン形式で職員が準備しました。アンケート内容も片手で短時間に回答できるよう設計に配慮し、帰りがけ

活動成果報告書

にお子さんと荷物を職員が預かっている間に回答いただく等の対応を実施しました。また、キッズスペースでの待ち時間やお子さんの預け渡しの際などに、子育て中のお母さんたちの生の声を聴くことができ、今回の企画の満足度や受診しやすい体制づくりに活かすことが出来ました。

〈活動成果〉

予約枠は通知後 24 時間で満席となったことや参加者のアンケート結果から、実施したオンライン予約制やキッズスペース確保、子守サポート検診の効果があったと考えられます。具体的な成果は次のとおりです。

1. 市民の企画への期待は大きかった

- ・開催日 2 週間前に告知した直後からオンライン予約が入り始め、3 時間で予約枠の 8 割が埋まり、24 時間で定数 20 人に到達しました。満席になった後も申込画面へのアクセスが途切れなかったことは関心の高さだけでなく、もっと多くの参加希望者がいたことが分かります。また、キャンセルで空きが出た際にも、直後に予約が入ったことから企画への期待が大きかったことは明らかです。（オンライン予約制について、電話での問い合わせはありませんでした）

2. 「受診したくても受診できない」市民の受診者数を確実に増やす手段を実証した

- ・今回の企画で 0 歳 2 か月～5 歳児を育てる母親 20 名全員が子宮頸がん検診を受診しました。開催日の受診者数は今回の企画で受診した 20 人を含む、129 人でした。今回の企画によって増加した受診者の割合は 18.3%にあたります。前年同地区比をみると、今回の企画の成果として 43.3% 増を実現しました（令和 4 年度 受診者 90 人）。今回は年度途中で開催したことから、単純計算はできないものの、「受診したくても受診できない」市民、特に市の公式 SNS で繋がっている未就学児童の保護者に対して確実に受診者数を増やす手段だといえます。

◇今後の計画

本取組は、当市で初めての試みでした。同様の託児付き検診や完全予約制などは他自治体でも例がありますが、特にオンライン予約制導入は乳幼児の子育て世代だけでなく、介護や仕事をしている市民にとっても受診行動に繋がる解決策になると考えられます。さらに、職員において予約制にすること自体が、予め受診人数などを事前に把握し、その対応や準備を当日までに確実に実行できるという業務変革そのものであることが分かりました。

ただし、見直すべき点もあります。受診する市民にとっては、検診の予約時間よりも検診の終了時間が分からないことが一番困っていることであると分かったので、その解決策を検討していきます。また、「お子さん連れ OK!」は、子育て世代の年齢層を考慮して検討し続けていき、市民が受けやすい検診の実施に努めていきます。

そして、今回の最も顕著な価値は、「今までマンネリ化していた、がん検診受診率向上策」から「市民目線を大事に考えて、問題解決に取り組む」ように保健師の仕事への考え方が変わったことがあげられます。今後は、オンライン予約制とキッズスペースの確保、子守サポート検診を検診日程に盛り込むだけでなく、市民目線からの新たな検診の受診率向上策の計画を掘り起こしていきます。